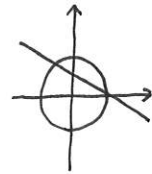




2014年医学部第1問

1 k を実数とし、円 $x^2 + y^2 = 1$ と直線 $x + 2y = k$ が異なる2点で交わるものとする。その2つの交点を P, Q とする。次の問いに答えよ。

- (1) k の値の範囲を求めよ。
 (2) 2点 P, Q を通る円の中心は直線 $y = 2x$ 上にあることを示せ。
 (3) 上の(2)の円の中心を $(a, 2a)$ 、半径を r とする。 r^2 を a と k で表せ。
 (4) 点 R の座標を $(2, 1)$ とする。 k の値が(1)で求めた範囲を動くとき、3点 P, Q, R を通る円の中心の座標の範囲を求めよ。



(1) 点と直線のキヨリ公式より、 $\frac{|-k|}{\sqrt{1^2+2^2}} < 1$ (円の半径) $\therefore |k| < \sqrt{5}$

$$\therefore \underline{-\sqrt{5} < k < \sqrt{5}}$$

(2) $P(\alpha, \frac{k-\alpha}{2}), Q(\beta, \frac{k-\beta}{2})$ とおける

α, β は $x^2 + (\frac{k-x}{2})^2 = 1$ すなわち、 $5x^2 - 2kx + k^2 - 4 = 0$ の解なので、

角算と係数の関係より、 $\alpha + \beta = \frac{2}{5}k, \alpha\beta = \frac{k-4}{5}$

$\therefore P, Q$ の中点、は $(\frac{\alpha+\beta}{2}, \frac{2k-(\alpha+\beta)}{4}) = (\frac{k}{5}, \frac{2}{5}k)$

(また、 $\beta - \alpha = \frac{2k + \sqrt{D}}{10} - \frac{2k - \sqrt{D}}{10} = \frac{\sqrt{D}}{5} = \frac{4\sqrt{5-k^2}}{5}$ ($\beta > \alpha$ とした))

便利な公式

\therefore 中点を通り、 PQ に垂直な直線は $y = 2(x - \frac{k}{5}) + \frac{2}{5}k \therefore y = 2x$ □

(3) 点と直線のキヨリ公式より、(点 $(a, 2a)$ と直線 $x + 2y = k$ に対して使う)

$$\left(\frac{|a+4a-k|}{\sqrt{1^2+2^2}}\right)^2 = r^2 - \frac{PQ^2}{4} \therefore r^2 = \frac{(5a-k)^2}{5} + \frac{5-k^2}{5} \quad \underline{r^2 = 5a^2 - 2ka + 1}$$



(4) (2), (3) より、円は、 $(x-a)^2 + (y-2a)^2 = 5a^2 - 2ka + 1$

これが $R(2, 1)$ を通るので、 $(2-a)^2 + (1-2a)^2 = 5a^2 - 2ka + 1$

$\therefore a = \frac{2}{4-k}$ (1) より $-\sqrt{5} < k < \sqrt{5}$ なので、

$$\underline{\underline{\frac{2}{4+\sqrt{5}} < a < \frac{2}{4-\sqrt{5}} \iff \frac{8-2\sqrt{5}}{11} < a < \frac{8+2\sqrt{5}}{11}}}$$